

第 02 講 【 陰陽学説 I 】 教科書 P.8～10

【 陰陽学説 】

：陰陽学説は古代中国で形成された全てのものに対する認識と解釈に用いられる一種の世界観であり方法論である。

春秋戦国時代から秦・漢時代に記されたとされる『黄帝内経』では陰陽学説を用いて医学中の様々な問題や人と自然の関係などを解釈・説明し、陰陽学説と医学を結合させ中医学の陰陽学説を形成した。陰陽学説の思想は中医学の各領域を一貫しており、中医学の理論を説明する道具・方法論であり、中医学理論の重要組成部分である。

1. 陰陽の基本含意

- 1) 原始的含意：日に当たった部分が陽、影になる部分が陰。
- 2) 哲学的含意：自然界・社会において互いに関係し、対立しあう 2 種の属性の概括。

2. 陰陽の基本特徴

- 1) 対立性：陰と陽の代表する事物の属性は相反するもの（正反対）である。
- 2) 相関性：陰と陽は互いに密接な関連性がある。
 - ① 整体・統一性：陰と陽に属する部分を合わせて一つの完全体になる。
 - ② 依存性：相対する属性が存在することにより初めて自分が存在する。
- 3) 属性の規定性：陰陽の属性は一度決まってしまうと通常変化することはない。
- 4) 可分性：陰陽は無限に分けることができる。
- 5) 転化性：ある一定の条件下において陰陽 2 種の属性が互いに転化する事がある。

3. 陰陽の分け方

- 1) 一般属性の分け方
 - 陽：良く動くもの、外に向かうもの、上昇するもの、温かいもの、明るいもの
 - 陰：静止しているもの、内にむかうもの、下降するもの、冷たいもの、暗いもの
- 2) 医学的属性の分け方
 - 陽：温煦、推動、興奮、無形、機能
 - 陰：滋潤、寧静、抑制、有形、物質

【 陰陽で対を作る事物 】 * 教科書 p.10 より

① 方向性

陽	上(左)	外	末端	出	昇	浮	凸	***
陰	下(右)	内	中心	入	降	沈	凹	***

② 自然界

陽	昼(朝)	夏(春)	南(東)	熱(温)	火	明	***	***
陰	夜(夕)	冬(秋)	北(西)	寒(涼)	水	暗	***	***

③ 人間、人体

陽	男	幼	外側	脊背	上部	六腑	衛	気
陰	女	老	内側	胸腹	下部	五臓	營	血

④ 病気

陽	躁がしい	強盛	温熱	乾燥	亢進	急性	***	***
陰	静か	衰弱	寒冷	湿潤	減退	慢性	***	***

4. 陰陽学説の基本観点

- 1) 世界の構成について：世界は陰陽 2 種の属性の物質により構成されている。
- 2) 世界の本質について：世界の運動変化の本質は陰陽 2 種の属性の運動による結果である。

例 { 昼：陽が旺盛、陰が減弱
夜：陰が旺盛、陽が減弱

【 練習問題 】

問1. 次のうち正しいのはどれか。

1. 上と下では上が陰である。
2. 体表と体内では体内が陰である
3. 背と腹では背が陰である。
4. 気と血では気が陰である。

問2. 次の中で陽に属するのはどれか。

1. 六腑
2. 腹
3. 体内
4. 下